発行日：2023.1.11
発行者：堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
編　集：協議会 + musubi design
連絡先：〒590-0930 堺市堺区柳之町西１丁 1-28
TEL.072-228-0953（志賀）
ＵＲＬ：http://sakaimachinami.jp/

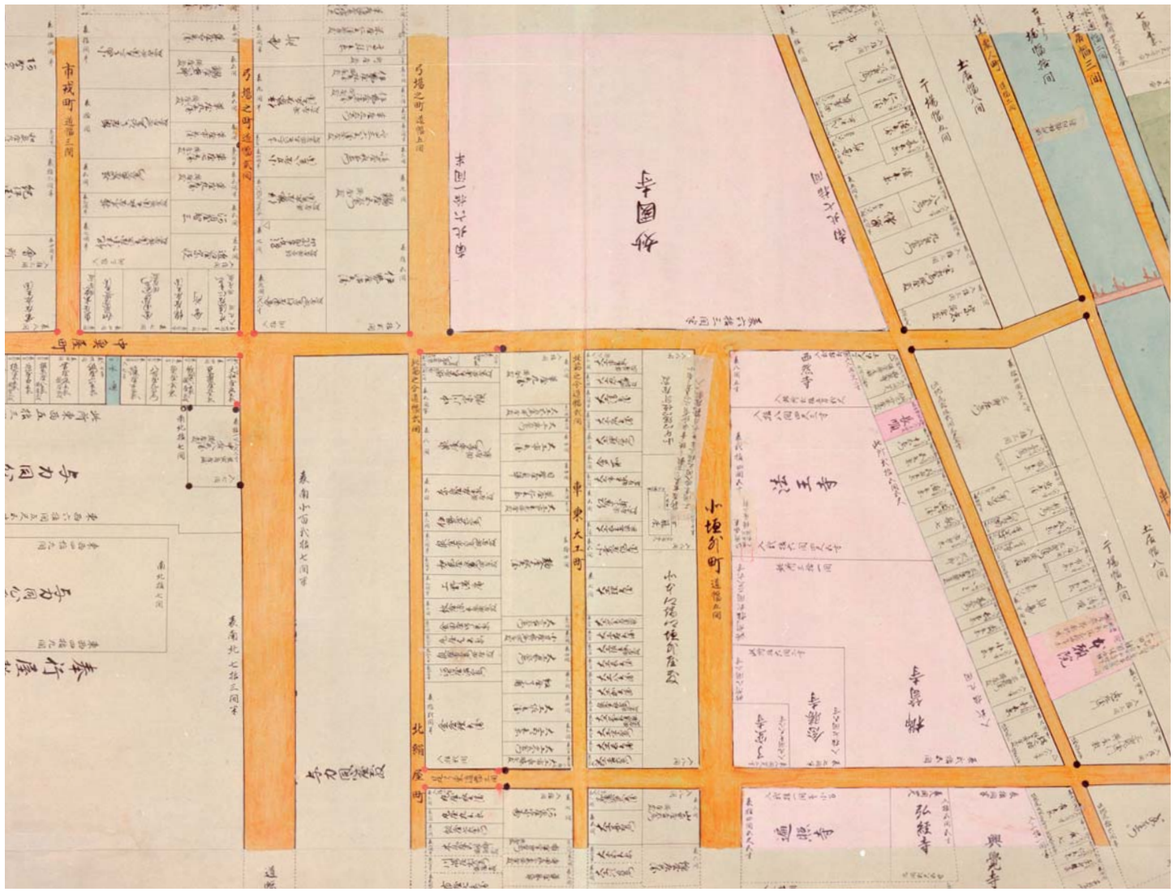
堺 環濠都市 NEWS ［ニュース］

北部

歴史的まちなみを未来に活かすため

町なみ再生シンポジウムⅡ「歴史的景観の技術とデザイン」開催！

vol.35



「元禄堺大絵図模写本」【部分】（堺市博物館蔵）

NEWS TOPICS

今号では、令和３（2021）年度、修景事例の２例目をご紹介します。

＜田中邸観光事業施設「知輪」＞

新築の一般建築の修景建物事例です。
下屋の庇（ひさし）をガルバリウム鋼板で葺き、外壁を漆喰風塗装で仕上げました。道路側の２階、3階の開口部には、虫籠窓をモチーフとした窓を配置し、屋号燈も設置しています。1階部には駒寄（こまよせ）風の格子を設け、外構の側面の塀もつくられ修景しています。

INFORMATION

▶月いちバザー（最終回）のお知らせ

ついに最後のバザーです！2016 年 4 月に堺町家案内所で第1回のバザーを開催して以来、やり方は少しずつ変化しつつも、「月いちバザー」として定着し、皆様のご協力で今まで続けて来ることができましたが、このようなバザーの形をとることは最後になりますので、是非、最後に掘り出し物を探しにお越しください。

1月21日（土）/22 日（日）
場所：堺町家案内所（北旅籠町大道西・内田家住宅1F）
時間：11:00～16:00

▶あなたなら、どうする？＜町家保存活用試案＞展示

諸般の事情により、延期が続いている展示ですが、地域のイベントである、3月の七まちひな飾りめぐりとの連携も視野に入れて、2月ごろから開催する予定です。具体的な日程が決まり次第、お知らせします。

▶堺環濠都市北部地区 伝統的家屋調査 報告会

3月19日（日）
場所：錦西公民館 集会室（堺市青少年センター 2F）
時間：13:30～

昨年 10月に、京都工芸繊維大学の堺環濠都市北部地区における調査が再開され、11月、12月と集中的に実施されました。その成果の報告と考察、それを踏まえたまちづくりの可能性について以下のタイトルでお話しいただく予定です。

「堺環濠都市北部地区伝統的家屋調査報告　歴史・生業・生活の関係性からみた堺の景観」
「堺環濠都市北部地区伝統的家屋調査を踏まえた文化的景観としてのまちづくりの可能性」

▶協議会へのお問い合わせはこちら
堺環濠都市北部地区町なみ再生協議会
TEL　072-228-0953［志賀］
MAIL info@sakaimachinami.jp

▶「まちなみ修景補助制度」へのお問い合わせはこちら
堺市 建築都市局 都市計画部 都市景観室（景観グループ）
TEL 072-228-7432
FAX 072-228-8468

今号の表紙

今号の表紙も「元禄堺大絵図」模写本で、前号（34号）の表紙の絵図のすぐ南側（下側）の部分になります。前号の絵図の右下に寺社を意味するピンク色に塗られた大きな敷地の一部が見えていますが、今号の表紙で絵図の右上に、その３分の２以上の敷地が現されている妙國寺であることがわかります。妙國寺は、現在は敷地北側に門がありますが、この絵図によって、元は南側にあったことや、その敷地の南半分と東側が現在では住宅地になった事もわかります。また、その南の現在の車之町東の部分は、府立泉陽高等学校の敷地になりました。堺環濠都市北部地区の南エリアは宿屋町までですが、このように、それより南の材木町以南は戦後復興の区画整理のため、大きく町の様子が変わっています。

前号NEWS発行から
現在までの進捗情報

町なみ再生シンポジウムII『歴史的景観の技術とデザイン』を開催しました！

| 2022.10.9（日）午後1時20分～午後4時30分 会場：堺市総合福祉会館5F 大研修室 |

テーマ：『歴史的景観の技術とデザイン～「都市」の記憶の再生に向けて～』

歴史都市再生のために、なくてはならない技術やデザインの方法を、みんなで一緒に、学びませんか？

ということで、1部の基調講演で、大阪産業大学准教授中川等氏と関西大学名誉教授西澤英和氏に講演していただき、2部では、参加者も交えて、質問や意見交換をし、学びを深めました。

中川先生には、「歴史的建造物と町並みの保存と再生は、その文化的な価値の再生にとどまらず、真に快適で豊かな生活環境の創造と地域の活性化に役立ち、また持続可能な社会の実現につながる」という指針を示していただき、西澤先生には、伝統的木造建築の耐震性について、一般には知られていない構造実験の驚くべき結果を教えていただき、私たちの常識が覆りました。

前号でも、シンポジウムIIを開催したことについて、一部簡単に報告しましたが、今号では、その多岐にわたる内容について、参加者に感銘を受けた視点を中心にまとめていただきました。

1部＜基調講演＞

『歴史的建造物と景観にみる文化性と再生のデザイン』

［大阪産業大学准教授　中川等氏］

中川先生はご講演の最初に、まず、一枚の京町家の写真を参加者に示され、この町家は北向きに建っていますが、この写真で何か気づくことはありませんか？と問いかけられました。残念ながら、誰も答えられませんでした。つまり、京都の町家は、南北の通りに面する場合は北寄りに居室、南寄りに通り庭があり、東西の通りに面する場合は西寄りに居室、東寄りに通り庭を配することが多いけれど、写真の町家は、移築されて東向きから北向きへと向きが変わったために、従来の町家の法則と玄関の位置が逆になってしまっていたのでした。

このことを知って、玄関の位置もほぼ統一された町家が整然と並び、美しい町なみを作っていたのだと改めて感動しました。民家や町家は、地域・時代・生業・階層によって多様な建築形式を持っていて、同じ地域、同じ時代、同じ生業、同じ階層に属する民家・町家は著しく類型化して一つのかたちに収束する傾向があるとのことです。このことから、堺環濠都市北部地区の町家をしっかり調査することによって、堺環濠都市北部地区の町家の特徴がわかってくるのではないかという期待が生まれました。

また、特に「アメニティ（快適性）」という言葉が、とても心に響きました。19世紀後半よりイギリスで形成された概念で、「然るべきところに然るべきものがある。」と定義され、「昔からその場所に家があって、代々の家人が大切に受け継ぎ、地域の人たちから親しまれ、今後もそこにあり続けるだろうという安らかな感覚が地域環境の快適性を生み出す。」とのことです。堺環濠都市北部地区が、この「アメニティ（快適性）」を保ち続けることを願ってやみません。

『伝統的な木造建築の耐震性を考える　～構造実験の現場から～』

［関西大学名誉教授　西澤英和氏］

西澤先生のご講演は、最初から最後まで、堺環濠都市北部地区の町なみを、町家を、守りたいという私たちの気持ちを鼓舞してくれる講演でした。

「欧米では、50年経てば、ヒストリカルアーキテクト、つまり、歴史的建造物＝文化財として必然的に登録される。グローバル化と言いながら、日本だけが、そんな世界の情勢に逆行している。」

「現在残っている戦前の木造家屋数は多くて30万戸。国際ルールでは、その全てが保護建造物、文化財だと言える。」

「日本は、異常な伝統的文化軽視の体質がある。伝統的建物を既存不適格な危険建物と悪者扱いして、徹底的に壊すのが良いこととしている。しかし、最新耐震建物と伝統的建築方法で建てた建物の耐震実験をしたら、倒壊したのは、最新耐震建物のほうだった。」

「2018年の総戸数は6242万戸、2人に1戸の状態で、すでにかなりのオーバービルドの状態になっている。ほとんどの住宅が空っぽなのに、建設産業を維持するために作っては壊しを繰り返している。どこかで破綻するのは目に見えている。」

「今見直すべきことは、欧米型の伝統的建物の保存修復への転換、伝統木造建物への理不尽な制約の廃止、無意味な法的規制の廃止など、伝統木造の復興を目指すこと。」等々。

西澤先生の古い建物への応援歌のような講演にとても励まされました。

2部＜公開討論＞共に学ぶ「歴史的景観の技術とデザイン」

先生方の熱のこもったご講演の後、2部においても、先生方との熱心な質疑応答がありました。ただ、いつものことですが、時間が足りなくなるので、今回も参加された皆さんの多くがアンケート用紙にご意見や感想などを書いて下さいました。その中には、中川先生が「文化財の価値（モノの価値）」「景観・風致の価値（モノとモノの関係性の価値）」と同様に、今後重要になると指摘されていた「ゆかりの価値（モノとコトまたはヒトの関係性の価値」に言及されたご意見も複数ありました。

鉄砲鍛冶屋敷のシンポジウムも開催されました！

| 2022.10.23（日）午後1時～午後4時30分 会場：関西大学千里山キャンパス 関大ソシオAV大ホール |

▶鉄砲鍛冶屋敷シンポジウムの配信映像より

「よみがえる鉄砲鍛冶屋敷－鍛冶技術の変遷を辿る－」と題して、今年も昨年に引き続き堺鉄炮鍛冶屋敷ミュージアムシンポジウムが開催されました。今年は、吹田市の千里山キャンパスで開催されたこともあり、協議会の関係者は参加されていなかったようですが、シンポジウム終了後、YouTubeでオンデマンド配信（2023年1月9日まで）もされていましたので、視聴された方もおられます。私たち市民には、なかなか伝わって来ない鉄炮鍛冶屋敷ミュージアム建設の経過や、調査の成果がわかりやすく解説されていました。

また、関西大学名誉教授の藪田貫氏は、このシンポジウムのご講演の中で、鉄砲鍛冶屋敷シンポジウムのポスターと本協議会主催シンポジウム（今号掲載記事）のポスターが、地域の町家に並んで貼られている写真を示されて、鉄炮鍛冶屋敷ミュージアム整備のプロジェクトと周辺の空襲で焼け残った江戸時代以降の町なみを保存・再生するというプロジェクトが平行して進められていることを高く評価されました。堺市のみならず、本協議会にとりましても、先生に評価していただいたことは本当に光栄なことです。今後とも堺市や協議会には、この評価に耐えられるような取組みが求められることと思います。